

1.フォローアップ懇話会について

- ・河川整備計画に位置づけた事業を着実に推進するため、前年度の取組み状況を報告するとともに、委員から意見を頂いている。
- ・懇話会は年に1回開催(直近の第4回懇話会は平成26年9月5日開催)



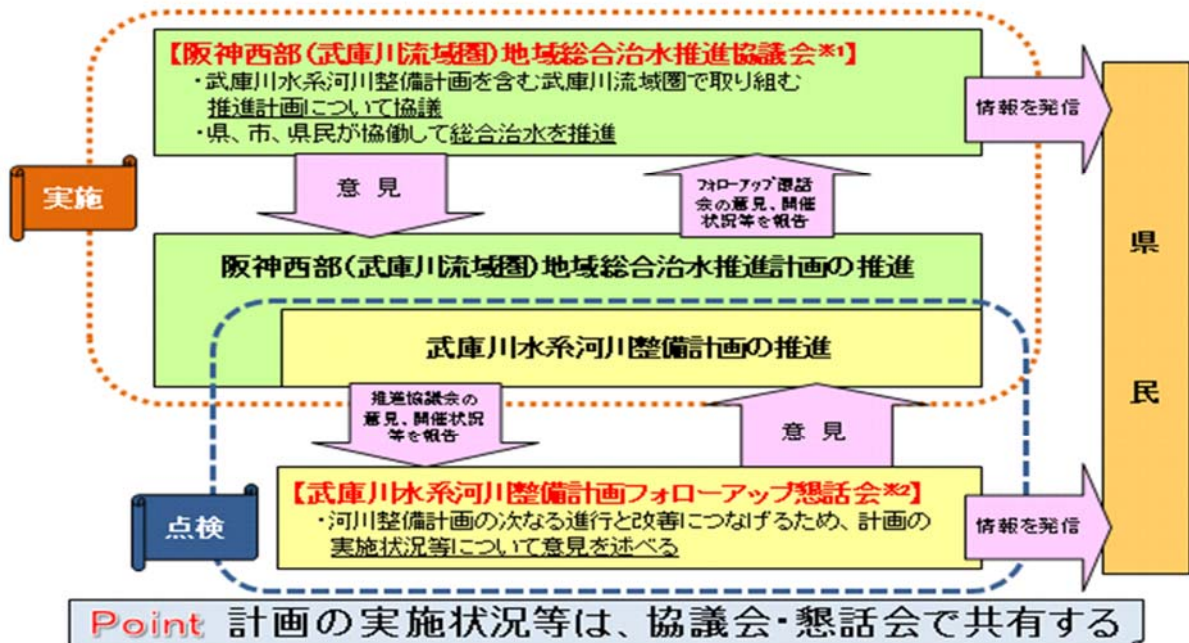
2.第4回懇話会での主な意見

主な意見	県の回答等
<ul style="list-style-type: none"> ・河道や堤防に生育している樹木は、大きくなったものは堤防の安全性に大きな影響を及ぼす ・河川内の樹木のあり方について整理が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>治水上支障があるもの</u>、枯れるなど倒れそうな<u>危険木は撤去</u>していくこととしている ・武庫川の高水敷には地域の景観を形成する樹木も存在するため、工事及び治水上支障が無いものは保護に努めている
<ul style="list-style-type: none"> ・上流で護岸工事を実施すると、洪水時には下流の水位上昇がより速くなっていると感じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川改修については下流からの整備を基本としつつ、<u>中上流部のネック箇所は拡張</u>するなど、<u>河川全体の安全度をチェック</u>しながら、整備を進めている
<ul style="list-style-type: none"> ・雨水タンクの取り組みがさらに進むよう、普及啓発が必要ではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・県は全市でタンク設置助成が進むよう、働きかけていく。 ・大雨が降る前にはタンクの水を抜くことが有効であることなど、<u>今後も市とともに積極的にPRを行っていき</u>たい
<ul style="list-style-type: none"> ・田んぼダム実施について、農業者の不安をどのように払拭していくのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・稲の生育への影響や畦畔が崩れることなどの不安があると思うが、千種川や加古川流域の先行事例では、<u>大きな影響は発生していない</u>。 ・そういった声をお知らせして理解を得ていきたい。

<参考>【阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進協議会】と【武庫川水系河川整備計画フォローアップ懇話会】の違いについて

	阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進協議会	武庫川水系河川整備計画フォローアップ懇話会
内 容	推進計画に基づき、県・市・県民が協働して総合治水を推進	河川管理者が策定した河川整備計画のフォローアップ
計画範囲	武庫川水系及び尼崎[逢川以西]・西宮・芦屋市内河川の流域	武庫川水系の流域

【阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進協議会】と【武庫川水系河川整備計画フォローアップ懇話会】との関係(イメージ)



※1 総合治水条例に基づき設置(平成24年10月)
 ※2 河川整備計画に基づき設置(平成23年9月)